

津波を語り継ぐ

ある男性が「こんなことは隣近所の人には言えないことだけど」と前置きした上でおっしゃった。

「地震の後は、人を助けることを考えずに逃げなければいけない」

「全員が自分のことだけを考えて避難すれば助かったし、命さえあれば家や財産が無くても助け合える」

男性によると、津波が来るまでは地震から約30分あった。それでも「ここまでは津波は来ないだろう」と考え、逃げなかった人が命を落としたのだという。

「海の近くの人じゃなくて、山手や街中に住んでいた人がたくさん津波にのまれたんだよ」

歴史的に津波の被害を繰り返し受けてきた三陸の人たちは「津波てんでんこ」という言葉で、地震の後は



各々が高台に逃げることを語り継いできた。

男性の言葉の節々からは「津波てんでんこ」を実践できなかった悔しい思いがにじみ出ていた。経験したからこそ力強く、同じ目にあってほしくないという気持ちが十分に伝わってきた。

自分の力で逃げるができなかった、お年寄りや子どもたちの厳しい現実にも向き合わなければならぬが、語り継がれる体験談から得た教訓を多くの人に伝えていくことも、被災された方の思いに応える私たちの大切な役割だと感じた。

(金澤 豊)